

(3) 最終処分場

運搬先の最終処分場は、クアラルンプール市から 50~60km 離れたスランゴール州にある。地元企業により建設され、2005 年 4 月に営業を開始した。1.2 億 t の埋立容量があり、17 のフェーズに分けて 40 年間の埋立が可能とされている。廃棄物はクアラルンプール市の他、スランゴール州の地元自治体や民間企業からも受け入れている。クアラルンプール市からは、平均して 18 t の大型コンテナ 120 個分が搬入されている。日量 1,000 m³ の処理能力を持つ排水処理施設が設けられており、USEPA（米国環境保護庁）基準レベル 4 の衛生埋立処分場である。2009 年 8 月からメタンガス回収が行われ、2011 年 6 月から発電が行われている。マレーシアの処分場では初めて CDM に登録された（Project 2467）。

ごみ処理単価は自治体向け 28.8RM/t（翌年から 49RM/t）、民間向け 50RM/t であった（2011 年 10 月の調査時点）。



施設入口



ガスエンジン



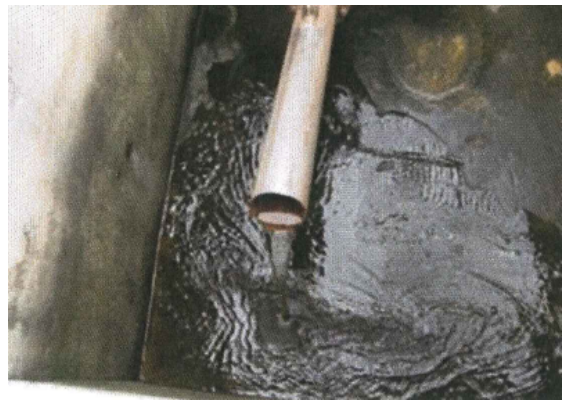
ガスエンジン



ガス収集管



浸出水処理設備



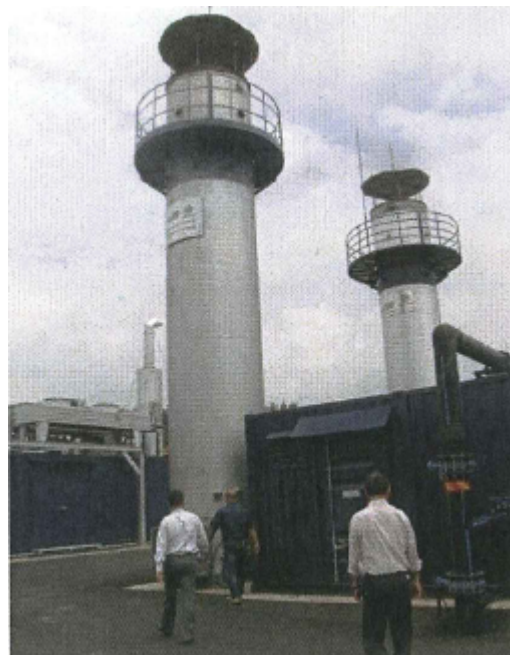
放流前の放流水



埋立が終了したサイト



埋立中のサイト



フレアスタック

表 4-3 CDM プロジェクトの概要

Project Title	Landfill Gas Recovery and Utilization at Bukit Tagar Sanitary Landfill, Hulu Selangor in Malaysia
Host Parties	Malaysia , Authorized Participants: KUB-Berjaya Enviro Sdn. Bhd.
Other Parties Involved	Japan , Authorized Participants: Japan Carbon Finance, Ltd.
Sectoral scopes	13 : Waste handling and disposal
Activity Scale	LARGE
Methodologies Used	ACM0001 ver. 8 – Consolidated baseline and monitoring methodology for landfill gas project activities
Amount of Reductions	219,625 metric tonnes CO2 equivalent per annum
Registration Date	28 Aug 09
Crediting Period	28 Aug 09 – 27 Aug 16 (Renewable)

(出典) UNFCCC ホームページ⁸を元に作成

⁸ <http://cdm.unfccc.int/>